

国内研修による成果の報告

研修機関 京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻

研修期間 1998年4月1日～1999年3月31日

研究課題 古代畿内地域における神社建築の成立経緯について

丸山 茂

論文 津田左右吉『日本古典の研究』における大化前代の史実—神社建築史ノート（二）

1998年5月成稿，跡見学園女子大学短期大学部紀要35（1999，3）掲載
記紀についての史料批判の古典的研究である上掲書についてその論証の構造を考察し，必ずしも実証的論証として完結するものではないことを述べた。

論文 神社建築の形成過程における官社制の意義について

1998年12月成稿，建築史学33（1999，9）掲載
従来の建築史が通説としてきた，神社は季節的な農耕儀礼の中から「自然」に成立したとする説について実証的論拠のないことを示し，律令制下の官社制によって，政策的に神社建築が成立し，それはまた神社の成立でもあったであろうことを述べた。

分担執筆 飛鳥・奈良・平安時代の神社建築

1999年2月成稿，『日本建築様式史』（美術出版社，1999，8）掲載
上掲の知見をもとに，古代の神社建築について，概説を記述した。従来の，漠然と飛鳥時代以前から始まる神社建築の形成史に対して，歴史史料にもとづいた実体的な記述に改めた。すなわち，平安初期以降の石清水八幡宮や祇園社などの宮寺の建築が神社建築史の主軸となること，従来の神社の本殿形式はそれらとの対立の中で形成されたとする考えを述べた。

論文 古代畿内地域における神社建築の成立経緯について—相嘗祭に預かる神社を中心に

1999年3月成稿，研修成果報告として私学研修福祉会に提出
相嘗祭および相嘗祭に預かる神社は，従来，律令神祇体制に先行するものと考えられているが，必ずしも祈年祭に先行するという根拠のないこと，および律令神祇体制の形成過程における二重構造として理解が可能であることを述べた。